

特定非営利活動法人 障害者と共に生きる会 あしたば

# あしたば

発行  
春日部市米島915-26  
048(745)3125  
NPO法人あしたば

## 障害者の災害時避難のことから

### 身近な相談事まで 今「あしたば」でできることを...

特定非営利活動法人 障害者と共に生きる会 あしたば 第3回総会 開催

6月4日、NPO法人あしたばの第3回総会が行われました。

開会に先立ち、代表理事から「昨年度も皆様のご協力で、あしたばの行事は滞りなく盛大に行う事ができました。しかし3月11日の大震災で、今までの穏やかな暮らしや学校生活がままならなくなつた方も多いと思います。障害のある人が暮らしやすいような街であるように、考えていけたらと思います」とあいさつがありました。



議長に選

出された金井氏からは「震災の後、障害者が避難所でどういう生活をしているのかを考えました。普段から地域の理解を得ておくことが大切なのではないかなと感じ、「あしたば」は、今後も地域での理解を広げるためにも、発信力を強めていかなければいけないのではないかと考えました」と話されました。

2010年度 事業報告  
(拍手で承認)

2010年度 決算報告  
監査報告

質疑応答

・NPO法人になって決算報告書

はわかりづらくなつた。端的に、昨年度は財政的にどうなのかを口頭で補足して頂きたい。

助成金を



もらっていないから、財政が逼迫している。無駄遣いもしていないし、販売活動もさぼっていませんが…。豊かでない事は確かですので、その他の事業をがんばりたい。ただあまりその他の事業をがんばると税金が高くなるので、きりつめつつもがんばりたいと思います。

・数年赤字が続けば、非課税団体として認められると税務署で聞いたがそれはどうなのか。

実費弁償という制度があり、5年間ずっと非課税が続いてその時に手続きをすれば非課税団体扱いになります。その手続きの書類が大変なのだそうですが5年経つうちに考えたいと思います。

(拍手で承認)

2011年度 事業計画案

・地域により広く深く発信しつな

害児者を抱える家族も参加できる行事に取り組みます。どうしたら会員以外の方たちとつながっていかけるか意識的に考えていきたい。また、しばらく学習会ができていないので、今年の取り組みの中で考えていきたい。

・地域の中で日ごろの活動からサポートしてくれるようなボランティアを募る、できればそれをネットワーク化していきたい。

・市役所との話し合いは「災害時」の対策の問題は、大きな課題になると思います。

意見

・障害児者の災害時の避難に関しては、市議会議員として6月の議会で取り上げたいと思っています。災害時の要援護者に対する体制を作っていく災害時要援護者支援制度が、今はまだモデル事業状態。知的障害者は「動ける」から支援の必要性を見落とされがちなので、その視点から訴えていきたい。みなさんのご意見ご要望をお聞かせください。

・クリスマス会で肢体不自由の特別支援学校のお母さんたちと話した時に「あしたばに入ろうかしら





でも、あしたばは知的障害だから…バス旅行への参加は（肢体不自由だと）できないし…クリスマス会は参加できるけど…」と言っていました。

でも、そのお母さんたち孤立しているのではないかと感じました。そういう意味からも事業計画で挙げられている「会員以外の障害者のニーズの把握」は課題かなと考えます。

・相談活動の中で昨年あった話しを聞かせてほしい。

精神障害と軽度の知的障害の息子さんを持つ、年配のお母さんが事務所に見えました。お母さんは、高齢だし身体の調子も良くないので、息子さんの入所施設を探しているが、福祉課は一覧表をくれるだけ。自分で施設と連絡を取って見学に行ったり、体験を申し込んでみたり…それだけでも大変なのに、相談した場所によっては冷たい対応をされ悲しい思いもされた事があったそうでした。また、福祉課に頻繁に相談に行っては煙たがられるだろうと思って遠慮しているとも話されていました。

話しに耳を傾け、気持ちに寄り添い、励まし、少しだけ心が元気になるようにお話しさせて頂きました。その後、その方が息子さんの入所が決まったと、わざわざ報告に来て下さいました。あの場所にあしたばの事務所があり、訪れた人が少しでも気持ち元気になつて帰っていただける、そんな存在であるというのも大切な事と実感しました。

（拍手で承認）

2011年度 予算案

（拍手で承認）

2011年度 役員案

（拍手で承認）

（代表理事あいさつ）

ご承認頂きありがとうございます。役員は同じですが、少しずつでも新しいところ、一歩踏み出せるような事が作っていかれたらと思っています。それには役員だけではできませんので、会員のみなさんやご近所の方、多くの方の協力があるてこそだと思えますので、ぜひご協力をお願い致します。

全てを通して意見・質問等

村山さん

総会で一番印象に残ったのが災害時要援護者支援制度の事です。今回の大震災でその必要性を痛感したし、逆に、その制度が必要とされるほど障害者の問題が地域に浸透していかないという事だし、「地域性」が崩壊しているからこういう制度が必要とされるのだと思います。

茨城大学農学部で「農業を通じて地域の人が集まれる場所を作ろう」という活動をしていました。その活動をしている時に「農業を通じて交流するのは楽しい」と思っていました。あしたばの活動もそれに通じるものがあると感じていたのですけれど「バーベキュー、クリスマス会など福祉の分野で地域の人が集まって生き生きと話しをしているのはいい事だし、障害を持つ人たちは、人を集めてくれる役割も大きいと思う。自分の関心から言えば、地域性の復活に期待があります。質問なのですが、イベントに会員以外の方に参加して頂くための呼びかけなどの具体的な方法はあるのですか？

クリスマス会のお知らせは、ポスター・チラシを市内の各学校に配布し、特別支援学級がある学校にはチラシを多めにに入れていま

### 当面の日程

- <市役所販売> 8月5日 9月2日 10月7日
  - <総合支所販売> 7月21日 8月18日 9月15日
  - <あぐりパークフリーマーケット> 7月17日(天候により変更があります)
  - <バス旅行> 8月2日
- 詳細は、同封の案内チラシをご覧ください。

す。宮代特別支援学校にはスクールバスのバス停でチラシを渡すなどしています。呼びかけと共に、障害の違う方でも安心して参加できる企画・運営というのは課題であるなど思っています。





んいると思うので、ああいふ形を継続できたらと思います。

私もうれしかつたです。中学の支援学

級の先生が生徒を引率して参加されたり、近所の一般の小学生も遊びにきていました。配布し続けてきたかいがあつたと思っています。会員以外の方の参加が多いのはうれしい事ですし、またがんばろうと思えます。

上原さん 庄和高の福祉研究部はどうしたのでしょ...

金井さん 私からまた連絡してみます。

代表理事 遠くから来てくれる学生ボランティアさんもありがたいですが、地域の中で少しずつ助け合いの輪が広がる事も、「地域性」に通じると思います。地域の中のボランティアさんも募集してネットワーク作りをしていきたいと思

います。尾崎さん 若い人が社会の役に立ちたいという気持ちを今すぐく持ち始めている。若い人にボランティアの話をしていくことも大切

です。同時に定年退職された人たちの中にも、ボランティア活動への関心は結構あります。例えば事務所の前に行事の予定表を貼っておくとか募集の方法を工夫すれば、定年退職された方も参加してくるのではないかと思います。

金井さん 高校生もそういう活動をしたい生徒が増えていると思います。以前、特別支援学校と交流活動していた生徒が「この学校の子たちは家に(地元)帰ったら孤立しているんじゃないの?それなら放課後遊んであげたい」という考えを持っていました。そういう視点の高校生をこちらも育てていかなければいけないと思います。

川原さん

知的障害者入所更正施設で11年働いていました。グループホーム・ケアホームということで入所生活の長かった方を地域生活に移行していく取り組みを行っていました。地域に溶け込んでいくためには地域の状況を把握し、障害のある人ない人双方の歩み寄りが無いことにはつまづかない。「障害を持つてるから何でも許される」ではなくて、障害があっても最低限の社会ルールは身につけていかなければ

ばいけないし、そういった視点で支援をしていくのが必要じゃないかと思っております。事業計画の中に「障



害者と家族のニーズの把握」がありますけど、それに加えて「地域のニーズ・健常者のニーズ」ということも頭に入れて活動の展開を図っていかたいのなかなと思えます。障害への理解ということをどういった形で啓発活動に乗せていくのか、そういった工夫の方法というのは検討していかなきゃいけないのかなと。

大野さん 庄和総合支所にあつた「ふれあいパーク」(食堂)が3月いっぱい無くなりました。

公立の施設には、障害者が働く喫茶店が入っていることがあります。総合支所に図書館を作るとき要望してきたのですが「ふれあいパークがあるのでむずかしい」というのが市の見解でした。そのふれあいパークが無くなりましたので、また改めて意見を聞いたうえで市に聞いてみようと思えます。よろしくお願い致します。

代表理事 どんな団体が入ったとしても、障害者団体や障害者施設が販売できるスペースがあつて、収入になるような制度もいいと思いますし、杉戸町の図書館のように障害者団体が共同で運営する喫茶店もいいですし、宮代町の「ぶどうの木」のように障害のある子

たちが働ける場所も必要かなと。地域の中で暮らしているから、地域の中で働いているところを皆さんに見せたいという思いもあります。地域の中に出るといふことでは、例えば障害者施設が味噌汁の材料の買い物をするために街の中に出る「お買い物をするにはお金が必要だよ」と、そういうことから施設をあげて地域の中に出る努力も必要だし、保護者も「右側を歩くのよ」という小さなことからルールを教える。障害を理



